非識字者を含むセンター修了生家庭への訪問調査報告

児玉　周子
内藤　　臨

１、調査の目的

中国帰国者定着促進センター（以下センター）に入所する学生の中国における生活背景は、実に様々である。都市で生活していた人もおり、農村で生活しておりその地域からほとんど外に出る機会がなかった人もいる。職業は多岐にわたる。中には就学の機会がなく識字教育を受けていない人（以下非識字者）もいる。中国帰国者が日本で生活する場合、漢字を介してある程度の意思疎通ができるため日本語が不十分でも漢字が日常生活に大きな助けとなるが、非識字者の場合、漢字を意思疎通の手段とすることはできない。また、就学の機会がなかった人の多くは農村部出身である。農村部出身の場合、都市部的な社会的経験（銀行の利用、交通機関の利用等）が少なく、日常の食料は自作のため買い物の経験もほとんどない人もいる。その場合、日本の生活を説明するとき、中国での生活経験を前提にした簡単な説明では理解できない。

センターでは、非識字者であることと学習適性とを考慮した教育目標（資料１）を定め、カリキュラムを組んでいる。しかし、センターの研修期間は４ヵ月であり、非識字者の場合、上述のような事情からスムーズな習得に特に困難があり、生活に必要な項目が習得できないまま修了することになる。センター修了後、日本の各地に定着するが、研修修了時には将来への不安をより多く抱えている。センターでの研修中の様子から、特に日常生活に必要な場面の解決は困難があると考えられる。しかし、センター修了後このような学習者が、実際日常生活の行動をどの程度自力でこなし、どの程度周囲の人の助けを借りているか、その実状は把握されていない。限られた短い期間でのより有効な指導のためには、その実状を知ることが必要である。

そこで、非識字者を中心にその生活の実状を調査することにした。

２、調査の対象

修了生Ａ～Ｈの８名６家族を対象にした。２家族は夫婦両方を対象としている。調査の対象を選出する際、以下のことを条件とした。

（１）調査者のいずれかが調査対象者かその家族の担任である、または授業を担当したことがある等、面識があること。
（２）夫婦の識字力に大きな差がなく、日本での生活で配偶者に頼ることを期待できないこと。
（３）居住地の近所に親戚等助けを期待できる人がいないこと。
（４）センター修了後およそ３年以内であること１)。

さらに、生活の便利さに地域差がみられると考えられることから首都圏、地方（東北）の双方から選出した。

３、調査対象者のデモグラフィック属性
表１参照

４、調査の方法
訪問面接による。中国語を媒介言語とした。日本語の力をみるために質問項目と関係なく日本語で簡単な質問もしている。面接時には、同居家族にもできるだけ同席してもらった。訪問時間は各家庭２時間程度である。

補充調査：調査の結果、家族の中で２世が大きな役割を果していること、近所の人と親しく交際しているケースがあることがわかり、２世（ＡＢ、Ｅ、Ｈ家）と、親しく交際している近所の人（ＡＢ家の近所の人甲さん、Ｅ家の近所の人乙さん）を対象に、電話による補充調査を行った。

表１　調査対象者のデモグラフィック属性

家族名	対象者名	性別 年令	学歴	中国での仕事	中国語 読み	中国語 書き	中国での居住地域	来日同伴家族(年令、同居別居の別、仕事の有無)	ｾﾝﾀｰ修了後の在中家族呼び寄せ状況	来日後の在日期間	定着地	ｾﾝﾀｰ終了後の進路
A B 家	A	男 54	無	農業	不可	不可	農村部	息子（１９才）別居　仕事有	手続き中※	１年 3ヵ月	首都圏	自立ｾﾝﾀｰ 8ヵ月 求職せず
	B	女 51	小５退	農業	少々可	不可						
C 家	C	女 56	無	農業	不可	不可	農村部	夫（５６才）同居　仕事無 娘（２７才）別居　主婦 息子（２２才）別居	２家族（詳細は不明）	３年 3ヵ月	首都圏	自立ｾﾝﾀｰ 8ヵ月 求職せず(病気)
D 家	D	女 48	小６退	農業	少々可	不可	農村部	夫（５４才）同居　仕事有 娘（２３才）同居　仕事有 息子（２０才）同居　仕事有	息子（？才）同居 仕事有息子嫁（？才）同居　仕事有	２年 11ヵ月	首都圏	自立ｾﾝﾀｰ 8ヵ月 求職せず
E 家	E	女 52	無	主婦	不可	不可	農村部	夫（５２才）同居　仕事有 息子（２０才）同居　ｱﾙﾊﾞｲﾄ		１年 3ヵ月	首都圏	自立ｾﾝﾀ- 8ヵ月 求職中
F G 家	F	男 54	小３修	ﾎﾟｰﾀｰ	少々可	少々可	都市部	無し		11ヵ月	地方	ｾﾝﾀｰ修了の３か月後就職
	G	女 53	小４退	主婦	少々可	少々可						ｾﾝﾀｰ修了の３か月後就職
H 家	H	女 48	無	主婦	不可	不可	農村部	夫（５４才）同居 娘（２０才）同居		１年 7ヵ月	地方	自立ｾﾝﾀ- 通学中

※調査終了後娘夫婦を呼び寄せた（１９９４年２月現在）

５、調査内容

調査には別記の調査票を用いた（表２）。この調査票はセンターにおける

非識字者を対象にした教育目標(資料１)をもとに作成した。項目は小目標、質問内容は達成目標に則している。

補充調査では、次の事項を質問した。

1) 2世への調査

①中国でも今のように親を助けていましたか。

②現在日本で親を助けていますが、どう思っていますか。

③交通機関の利用、病院の利用等、親がひとりでもできるようになるように親と一緒に練習してみたことはありますか。

④今後、家から独立したり仕事をしたりして今のように親を助けることができなくなった場合、どうしようと考えていますか。

2)近所の人への調査

①調査対象者と交際するようになったきっかけは何ですか。

②行き来する頻度はどのくらいですか。また、どんな付き合いがありますか。(例：買い物に行く。一緒に食事をする)

③どの程度意思疎通ができますか。

④交際上、日中の違いからくるトラブルは何かありましたか。

⑤調査対象者との交際について率直に感想を聞かせてください。

６、調査日

A・B家　C家	１９９４年1月２６日
D家　E家	１９９４年1月３１日
F・G家	１９９４年2月　７日
H家	１９９４年2月　８日

７、調査の結果

表２参照

表２　調査票と調査結果

１、身近な生活行動場面
自力でできる・している◎　助けを借りて自分でできる・している○
できない・していない×(代わりにしてくれる人)　その場面無し／　不明？

項目	質問内容		AB	C	D	E	FG	H
1) 交通	①行ったことのない所に道を尋ねながら行けますか		○ 一度だけ	／	／	／	／	／
	②何度か連れて行ってもらったことのある所まで交通機関を利用していけますか。 また、行けるようになるまでどのくらいかかりましたか		◎	◎	◎	◎ (2ヵ月後)	◎	◎
	③行ったことのない所に交通機関を利用して行けますか		／	／	／	／	× (身元引受人)	／
	④道に迷ったときや事故にあったとき通行人に助けを求めることができますか		◎	◎		◎	／	／
	⑤道に迷ったときや事故にあったとき自宅に電話連絡ができますか。		？			？	／	／
2) 消費 生活	①商品の形態や価格の違いを区別したり、消費税を念頭において買い物していますか		◎	◎		◎	◎	
	②買いたいもののある場所を探せますか。		？	◎	×	◎	◎	◎
	③品物を選ぶ(似ている品物を区別して買う、試着するなど)ことができますか		？	◎	◎	◎	◎	× (娘)
	④写真店(a)、理美容室(b)を利用できますか	a	× (息子)	／	× (近所の帰国者)	？	／	× (娘)
		b	○	？	○	◎	／	× (娘)
	⑤レシートを見て釣り銭を確認したりつり銭のトラブルに対処したりできますか		×	×	×	◎	◎	×
	⑥訪問販売等契約上のトラブルを回避するため気をつけていますか。		？	◎	◎	？	？	◎
	⑦銀行・郵便局での預貯金出し入れ(a)、公共料金の支払い(b)ができますか	a	○	◎	×	× (息子)	◎	× (主人)
		b	○	◎	○	× (息子)	◎	／
3) 住居・ 近隣 対応	①住居内の安全と衛生（施錠、雑巾の区別等）に気をつけていますか (調査者の観察による)		◎	◎	×	◎	◎	◎)
	②近所の人との付き合いに関して、回覧版の処理(a)、日常のあいさつ(b)、日常のあいさつ以上の付き合い(c)は、していますか	a	／	◎	×	×	◎	×
		b	◎	◎	×	◎	◎	◎
		c	◎	×	×	◎	×	×

	③身元引受人や自立指導員に必要なときに助けを求めることができますか。また、どんな方法で助けを求めますか。		◎(電話)	◎(電話)	◎(電話)	◎(電話)	◎(電話)	×(娘)
	④訪問を受けたとき適切に接客できますか（調査者の観察による）		◎	◎	×	◎	◎	◎
5)職場・自分学校	①求職できますか		／	／	／	×(学校)	×(身元引受人)	×(２次センター)
	②職場でのあいさつ(a)、休暇等の届け届け出(b)ができますか		／	／	／	／	◎	／
			／	／	／	／	／	／
	③就職面接時、面接のマナーを守って、適切に対応できますか		／	／	／	／	／	／
6)健康	①何度か連れて行ってもらったことがある病院に同じ症状ならその病院を利用できますか		◎	◎	◎	◎	◎	×(娘)
7)通信	①中国語で電話を受けたり(a)、掛けたり(b)できますか	a	◎	◎	◎	◎	◎	／
		b	◎	◎	◎	◎	◎	×(娘)
	②手紙を出せますか		×(息子)	×(娘)	×	×(家族)	◎	×(家族)
8)社会福祉	①自分に必要な諸手続きができますか（生活保護の申請、外国人登録、家族の呼び寄せ等）		×(息子、自立指導員)	×(子供)	×(娘)	×(息子)	×(息子)	×(身元引受人・家族)

２、生活に必要な基礎知識・基礎技能

よくしている◎　することもある○　していない×

項目	質問内容	AB	C	D	E	FG	H
1)一般教養	①正確な年齢を意識していますか	×	◎	×	？	？	◎
2)異文化	①日本での生活の困難について、認識していますか	×	◎	×	？	◎	◎
	②トラブル等を通じて文化の異同を意識していますか。	○	×	×	？	×	×
	③センターや同級生等、何らかのサポートを入手していますか。また、それは何ですか	◎(同級生・帰国者・期の序の日本人)	×	◎(帰国者・２次センター・中華街)	◎(近所の日本人)	◎(同級生)	◎(指導員、学校の先生、近所の日本人)
	④趣味・娯楽等、楽しみをもっていますか。	◎ペットテレビ散歩	○散歩テレビ	◎中国のVTR、中華街へ行く	◎近所の人との交際	◎テレビ、酒／煙草、中国への送金	◎テレビ、家庭菜園

3) 日語・ 自学	①生活の中から日本語を学んでいますか 　それはどんな方法ですか	◎ 近所の人との交流で	×	×	◎ 近所の人との交流で	◎	◎ テレビ
	②記憶の助けにするためひらがなでメモしていますか	×	?	×	◎	×	×
4) 今後	①今後の生活について考えていますか	○	○	×	○	◎	◎

３、身近な生活や生活の基盤となるコミュニケーションの力
(調査者の観察による。質問はしていない)
できる◎　少しできる○　できない×

項目	質問内容	AB	C	D	E	FG	H
1) 話題・ コミ	①相手の話が理解できないとき、わからないと伝える	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	②意思疎通のため様々な方法（ジェスチャー、絵を描く等）を使える	○	◎	×	◎	◎	◎
	③自分に身近な話題について様々な方法を使って答える	○	◎	×	◎	◎	○
2) 日語・ 知識	①ひらがなの読み書き	×	?	×	◎	◎	○
	②簡単な日本の漢字の読み書き	×	×	×	?	◎	×
	③日常生活に必要な有用な語彙や表現の使用	◎	◎	×	◎	◎	○

1)交通

非識字者の多くは、中国の農村部の出身である。中国での普段の生活は、自宅と田畑、職場との往復や隣近所との行き来等、ごく狭い範囲内での行動に限られていたと言う人が多い。また、交通機関があまり発達していないこともあり、自宅と町の繁華街の間等決まった区間以外にバスや電車、汽車を利用しての遠出をする機会もほとんどなかった。

非識字者の場合、漢字で書かれた地名や看板を読むことができないため、知らない所に行く場合、人に道を尋ねながら行くことになる。駅名の表示や看板等を目印としたり記憶の助けにするのが困難であり、道順を覚えるのに時間がかかる２)。

センター修了後、バスや電車等の交通機関利用の第一歩となるのが、中国帰国者自立研修センター（以下自立センター）[3)]への通学であった。家族全員が同じ自立センターに通うことがほとんどで、授業が始まって１、２日は自立指導員[4)]の案内があり、その後は家族、または夫婦で通学するケー

スが多かった。夫婦間や親子間で始業時間が違っていてもしばらくは家族の誰かが調査対象者に付き添う形で通学していた。しかし、2、3ヵ月経つと、一人でも通えるようになっている。道を尋ねながら行ったことのない所へ一人で出かけるという人はほとんどなかった。道に迷うのが恐い、というのがその理由であった。行ったことのない所に行く機会があっても、2世や身元引受人の付き添いに頼っていた。他の人に連れていってもらえるので、自分で道を尋ねてまで出かける必要はないようである。A、Bさんは夫婦で一緒に自宅周辺で迷ったことがあるが、最寄りの駅名を日本語ではっきり言えたこと、駅から家までの道は確実に把握していたことで、無事帰ってくることができた。Eさんは、「えき」「わたし」「がっこう」等の片言の日本語で交番の警察官に自立センターの先生と連絡をしてもらった。Hさんは自宅の住所を自立指導員の指導により暗記していた。この3ケース以外は迷ったときの対策を考えていなかった。

自立センターで学習していた人の多くがバスや電車を乗り継いで1、2時間かけての通学だったが、8ヵ月同じ道程を通うことで「あそこならひとりでも大丈夫」という自信を付けていったようである。今後、通院や通勤等、初めての所へ行くようなことが生じた場合、数回はやはり付き添いがなくてはならないと思うが、ゆっくり時間をかければ一人で行動することも可能になると思われる。

2)消費生活

非識字者には中国での買い物の経験があまりない人が多い。特に、農業に従事していた人は、自給のため食料品の買い物の必要はほとんどなかったと言う者が多い。日本での買い物は、スーパー形式で、自分で品物を選んでレジに持っていきお金を払うという流れさえわかれば、ことばを必要としないためほとんど問題はない。ただ、桁数の大きい数字が読めないため、値段の比較や表示を見て選んで買うということは困難である。銀行での預貯金は農村ではまだ普及しておらず、自宅でたんす貯金をしていたか、銀行を利用していたとしても他の家族にまかせっきりにしていた人が多い。

センター修了後、生活を始めるにあたってまず必要となる家具、食器、電気製品等は、身元引受人[5]や自治体等から譲られれば購入する必要がなかったり、購入する場合でも自立指導員と一緒に買いに行くケースが多かった。日常の食料品や雑貨等の買い物はすぐ慣れ、中には近所の他の帰国者からの情報で安い店を見つけて、出かけているという人もいた。

釣り銭の間違いについては、店員を信用しているので確認しない人がほとんどで、トラブルに対処したことがある人はＥさんだけだった。

訪問販売等に対しては、日本語がわからないことを手をふってジェスチャーで示したり、「ない」（「わからない」の意味）と言って対処していた。　生活保護費の受け取りや公共料金の支払い等のため、銀行や郵便局での振り込み、引き出しが必要である。銀行口座の開設や、お金の出し入れ、キャッシュカードの利用の仕方等は、初めに自立指導員の指導があった。月々の生活費の引き出しは家族が家にいる場合は、家族が行っていた。既に２世が自立して家を離れている（Ｃ家）、夫婦共に働いている（ＦＧ家）等の場合は、家計管理に対する意識が強く、自分で行っていた。家賃の銀行振り込みが必要なＡＢ家では、２世が週末に自宅に戻ったときにあらかじめ振込用紙に必要事項を記入してもらい、後日Ａさんがその用紙を持って銀行に行っていた。

元々は２世に任せていたものを、２世の別居、就職等の理由でできなくなったためやむをえず自分でするようになったのであろうが、できることは少しでもすることが今後の自信と自立につながっていくのではないだろうか。

3)住居・近隣対応

自治会の活動や回覧板の内容、ゴミの出し方等の日常の細々したことを気軽に尋ねたり、急に病気になったとき援助が求められるよう、近隣の日本人と良い関係を作っておくことは重要である。しかし、非識字者の場合、日本語に自信がなく、さらに漢字を介して意思疎通することができないため、初めから日本人との交際をあきらめてしまっている人もいる。

今回の調査では、回覧板の内容の読み取りは２世等の家族が行っていた。回覧板が回ってこないところもあった。団地の掃除には最初は２世が出てい

たが、２世が忙しくなり調査対象者がでるようになったところもあった。

日常のあいさつは皆自信をもって「できる」と答えていた。しかし、日本人は昼間働いている人が多く、顔をあわせる機会がないため、近隣の日本人と日常のあいさつ以上の交際をしている人は少なかった。６ケース中４ケースは日本人とは特に交際はなかった。ＡＢ家とＥ家の２ケースは近所の日本人との交際があった。

ＡＢ家は近所の主婦（甲さん）と交際していた。甲さんは仕事をしていない。毎朝、甲さん家の前を通るたびあいさつを交わしているうちに親しくなった。家に招いてギョウザをご馳走したり、ギョウザを持っていったときにそのお礼をもらったりというやりとりがある。病気のときには車で病院まで送ってもらったこともある。

Ｅ家は、同じ団地の主婦（乙さん）と家族ぐるみの交際をしていた。乙さんの家族は夫婦と小学校低学年のこども２人の４人で、団地の同じ棟に住んでいる。こども好きのＦさんが乙さんのこどもが外で遊んでいるとき話しかけたのが交際のきっかけだった。こどもはＥ家によく来る。乙さんは、夕方買い物に行くとき誘ってくれたり、大きな物を買いに行くときはついて行ってくれたりしている。テレビの配線がわからないとき聞きに行くと家に来てくれた。互いの家の行き来もあり、一緒に食事をすることもある。Ｅさんは乙さんの家にあったトイレの洗浄剤（ブルーレット）を見て売っている所を尋ね、一緒に買いに行ったりもしている。

意思疎通に関しては、乙さんは「表情等で相手が言いたいことはだいたいわかるし、相手も自分が言いたいことがだいたいわかるよう」と答えており、日本語が話せないことや筆談が使えないことで意思疎通が困難であるとは考えていなかった。トラブルは２ケースとも、特になかった。甲さんも乙さんも特別、中国や帰国者の事に興味があるわけではない。「帰国者」として付き合っているのではなく、「近所の人のひとり」として付き合っている。調査対象者との交際についての感想は、乙さんは、「子供をかわいがってくれるから（楽しい）」と答えていた。

近所の日本人とどのくらい交際があるかというのは、周りの日本人の受け

入れ姿勢に大きく作用されるだろう。上述の２ケースは、ことばでは通じていなくても手振り身振りで伝えあっており、そのことをそれ程困難なことと感じていない。ことばが通じないことや異文化の人であることで交際が大変であるとは考えずに、日本人側が積極的に非識字者の帰国者に関わってくれれば近所の日本人との交際は増えていくのではないだろうか。

4)職場、自分学校

中国では、仕事は国によって決められたものに就くのが原則で、日本のように職を求め活動することはなかった。非識字者の多くは物心ついた頃から農作業や家事の手伝いをしており、日本の求職の仕組みや給与体系を理解して、自力で職業安定所や広告等で職探しをするのは大変難しい。

今回の調査では、半分の人は病気等何らかの理由で、仕事をしていなかった。残り半分の人はすでに仕事をしている人と求職中の人であるが、求職では自立センターや身元引受人の紹介に頼っていた。身体が丈夫であれば、就職の意欲は強いようだった。一日でも早く自立し、中国に残してきた家族を呼び寄せたいとの思いからである。職探しを助けてくれる自立センターの職員に絶対の信頼をおいているようだった。

5)健康

生活保護の支給をうけていると病院の利用の手続きが複雑になる。役所で手続きをして医療券を受けとってから病院へ行かなければならない。必要事項の記入もあり、病院内での受け付けから薬を受け取るまでの流れも複雑で、自力で初めての病院にいくのは難しい。診察の際の質問や指示、薬の飲み方を正確に理解することも難しい。

初めての病院へ行く場合は、必ず家族と自立指導員の付き添いを要していた。２回目からは家族が付いて行っていた。何度か連れていってもらって病院までの行き方をおぼえ、歯の治療や慢性病の治療、薬の受け取りのみ等、込み入ったやりとりがなくなってから一人で行くようになっていた。

6)通信

中国では、電話の普及率がまだ低く、電話を使ったことがなかった人もいる[6)]。

家にかかってくる電話の受け、電話掛けとも中国語ではできていた。自立指導員との連絡は電話でしていた。自立指導員の電話番号のメモを持っており、緊急時も含めて援助してくれる自立指導員との連絡に電話番号は重要であることをよく認識していた。家に電話がない人は電話を利用していなかった。その場合、身元引受人等との連絡は公衆電話を利用することになり、家族が行っていた。

手紙は家族が出しており、自力で出している人は識字力が比較的高く、代わりに出すことができる家族がいない人だった。

7)社会福祉・手続き

必要な手続きは国籍の取得、生活保護の申請、パスポートや在留期間の延長、住民登録や外国人登録証の更新、中国に残してきた家族の呼び寄せに関するもの等がある。様々な書類にそれぞれの必要事項を書き入れる作業は文字がわかる人にとっても困難を伴う。

これらの手続きには、自立指導員が付き添っていた。中国に残してきた家族の呼び寄せに関する手続きは２世等の家族が行っていた。

手続きの煩雑さを考えると、人に頼らざるを得ないと思われる。但しその場合、期間延長や更新日等の手続きの期日だけは本人や家族が覚えている必要があるだろう。

8)異文化

習慣や考え方の違いから、日本人との間で誤解やトラブルが生じている人はいなかった。ただ、近所の日本人と交際があるＡ、Ｂさんはどんなに親しくなっても玄関先だけの対応で家のなかに通されないことに違和感を感じてはいた。しかし、「習慣の違いのためだ」とよく認識していた。

同じ団地内や近くに帰国者が住んでいるのは６ケース中５ケースで、その人たちが調査対象者より先に来日した人たちは、理髪店や安い商店等の情報

をそこから得ていた。自立センターに通っていた人たちは、学習修了後も電話で同級生から仕事の情報を得たり（A、Bさん）、自立センターを訪ねて先生や学習者と話をすることを楽しみとしていたりしていた（Dさん）。自立センターに通わず就職したF、Gさんは、職場に中国人が一人いるだけで近所に帰国者はおらず、帰国者や中国人等中国語や中国の生活に通じた人との交際の機会は他のケースに比べて少なかった。しかし、身元引受人に頼んで、近郊に住んでいる（所沢）センターでの同級生に会いに連れていってもらったり、市役所の職員を介して帰国者を紹介してもらったり、（所沢）センターの教師と連絡をとり、知り合いの人の電話番号を調べてもらったりする等、自分でネットワークを広げていた。

日常の楽しみとしては、テレビを見ること、散歩があった。相撲、アクション系の映画やドラマを好んで見ていた。A、Bさんは散歩の途中、メダカやザリガニを採ってきて飼っていた。乗れなかった自転車を練習して乗れるようになったため行動範囲が広がり、買い物も楽になったと喜んでいる人もいた。Hさんは庭で野菜作りをしていた。

新しい土地に移り住むのはたとえ自国内でも大きな不安を伴うものだが、非識字者にとって、先に来日していた帰国者の存在は情報源や精神安定の面でもずいぶん助けになっているようである。

日本人との間のトラブルが無いことについては、日本人との深い付き合いがあまりないこともその理由となっているであろう。また、調査者が日本人であるため言いにくいということも考えられる。

9)日語自学・日本語

就学経験が無く勉強に慣れていない学習者が、机上での勉強で日本語を獲得していくのは困難である。そのため実際の生活の中で周りの人が話す日本語に耳を傾けたり、日本語を日本人に尋ねながら学んでいくのが適した方法であろう。

近所の日本人と交際があるEさんは、その日本人との交際の中で覚えた単語がよくでてきた。「茶わん」、「そろばん」（近所の日本人の子供が習ってい

る)、「中国のおばさん」、「座って」等がその例である。交際している日本人も、「Ｅさんはよく（私たちが）話していることに耳を傾けている」と言っていた。ザリガニをペットにしている人は「ザリガニ」と日本語で出てきた。公園で採ると同時に周囲の人に「何？」と尋ねたらしい。仕事をしているＦ、Ｇさんも単語がよく出てきた。近所の人や職場の人等から日本語を耳にする機会が多い人の方が日本語をよく覚えている。

何かを断るときや否定するときは「ない」と答えるケースが多かった。例えば、訪問販売の人に「ない」と答えたり、銀行で係の人に助けを求めるとき自分はできない旨を伝えるとき「ない」と言っていた。否定型の「～ない」を拾って覚えたのであろう。テレビを見るのが好きなＨさんは、テレビから「あけましておめでとうございます」を拾っていた。

センターで修了時に渡された日本語のテープ７)を毎日聞いているケースもあった。

平仮名の学習を続けているケースもあった。しかし、聞いた単語をメモするなどそれを記憶の手段にするまではできていなかった。

10)今後

在日年数が３年と長く、既に中国に残してきていた家族を呼び寄せているＣ家や呼び寄せの手続きがすみ、来日が近日中に決まっているＡＢ家は安堵感がうかがえた。呼び寄せを希望しているが、まだ手続きが具体的に進んでいないケースは自分が残してきた家族の身元引受人となるために、一日も早く就職し、自立することを当面の目標としていた。既に就職しているケースは、あと一年頑張れば自分にも呼べるだけの基盤ができるだろうという具体的な展望をもっていた。

中国の家族を呼び寄せること、家族との団欒の時をもてることが日本での生活において大きな支えとなっているようだった。

11)補充調査の結果

①２世

一様に、２世は親を助けていることについて当然と考えており、特に負担を感じていなかった。むしろ、日本語がわからない親にかわって自分がやるのは当然と考えていた。自分が手続きすることが自分の勉強になるとも考えていた。中国で親を助けていたかどうかに関わらず同じ答えであった。将来家を離れるつもりでもその頃には現在中国にいる兄弟が帰国する予定であり、自分が家を離れても親は困ることはない。また、親が一人でも銀行を利用したり電車やバスを利用できるようなるため、一緒に練習する等何らかの指導をしたことがある２世はいなかった。

②近所の人

本章－3)住居・近隣対応を参照

８、まとめ

実際の生活において、生活に必要なことを（資料１：「中目標１」に相当する事項）ひとりで行わなければならない、周りから何の援助も得ることができず日常の生活に困難がある、というケースはなかった。２世がいれば２世が代わって行っており、いなければ自立指導員等の公的な援助がある等、周囲の何らかの援助を得ていた。

センター修了後各地に定着すると、生活に必要なことについてまず自立指導員等から指導があり、数回の指導で２世が覚えることができるとその手続きに関しては２世が中心となっていた。銀行や社会福祉手続き等の公の手続きで煩雑なものに関しては、２世がいる家庭では２世がしている。その他、自立センターへの通学や買い物、回覧板の処理、自立指導員との連絡、病院への付き添いにいたるまで２世が助けているケースもあった。このように一家は２世に頼っているが、このことについて２世自身は特に負担に感じていなかった。

一方、生活の一部ではあるが、自力でこなしているケースもあった。２世がいないケースでは、他のケースで２世が行っていることでも自力でこなしていた。また、２世が仕事をしている等時間的に余裕がないケースでは例えば銀行の振り込みのみ等、することを限定して自力で行っていた。２世がい

ない、２世が仕事をしている等、自力でしなければならない状況になり、必要に迫られると自力でできるようになっている。漢字が読めないことが影響し練習をしても限界があるものもあるだろうし、長期の練習を必要とするものもあるだろう。しかし、周囲が全てを代行するのではなく、本人が自力で行うものを限定して練習していく教育的配慮があれば、その範囲内でできるようになるのではないだろうか。

９、今後の課題

日常生活において家族を含めた周囲の人に頼っている現状について、本人はどう考えているのだろうか。頼ることで解決できるのだから、自分が努力する必要はないと考えているのか、それとも、できたら自力でこなしたいと思っているのだろうか。前者であるとしたら、本人が多大な努力を要しなくてもできる範囲内で、自力でこなすことを目標とする指導は必要はないかもしれない。後者であるとしたら、自力でこなすことができるようになる指導が必要である。自力でなんとかこなしていくことで日本での生活で「自分の役目」を得、それが自信や満足につながっていくことも考えられる。今後、本人がこのことをどのように考えているのか、さらに調査する必要があるだろう。

注

1) センターでの研修は帰国後およそ２年以内の生活に必要と考えられる事項を念頭においているため。

2) センターでは交通機関の利用はまず、バスや電車に乗ることに慣れることから始める。その後、電車の乗り換えをする、電車に乗る距離を延ばす、と段階を追って練習している。また、目的地を書いたメモを使って道を尋ねながら目的地に行く練習もしている。

3) 中国帰国者自立研修センターとは、全国主要都市に設置されており、定着促進センターを修了した者、または、都道府県知事が入所を認めたものに対し日本語の補講、生活及び就労の相談・指導を行う機関である。期間は原則として８ヵ月である。自宅から通所する。

4) 自立指導員とは、各都道府県が国の委託により帰国者世帯に派遣される人をいう。日常生活等の諸問題に関する助言・指導、市区町村や福祉事務所等公的機関との緊密な連絡及び必要に応じてこれらの窓口に同行しての仲介、日本語の指導、職業訓練のための助言・指導にあたる。

5) 身元引受人とは、孤児世帯の身元引き受け、日常生活上の問題の相談、自立に必要な指導、助言に当たる人である。引受期間は引き受け開始から３年以内。

6) センターでは電話の練習はまず、プッシュホンのボタンを押す練習から始める。電話での会話を学習するというより電話の利用に慣れることが中心になる。

7) センターの教材『ひらがな練習帳１－よんでみよう－』（1991 年　中国残留孤児援護基金発行）を中国語と日本語で録音したもの。

＜タイプ別目標構造表（Ａタイプ－ver.３）＞

中目標１：身近な生活行動場面の基礎知識・基礎技能

小　目　標	達　成　目　標	リ　ス　ト
１）交通 周囲の助けを得ながら、交通機関も利用して目的地に行くことができる	①　徒歩や自転車での通行に関する交通ルールや注意事項を守って通行できる	◇車は左人は右、信号、道路・踏切の横断、自動車の内輪差、危険行為
	②　よく知られている場所を指定され、その場所のメモを渡されれば、通行人にそのメモを見せて道を尋ね、行ったことのない目的地にも行ける	
	③　2､3 度連れられて行ったことのある駅までなら、かつ中国語で行き方を尋ね、経路図を書いてもらえれば、人にそれを見せて尋ねながら電車を利用して行ける	
	④　前以て中国語で行き方を尋ね、経路図を書いてもらって、人にそれを見せて尋ねながら、電車を利用して行ったことのない駅まで行ってみる	
	⑤　２、３回乗ったことのある区間なら、目的の停留所までバスを利用して行ける	
	⑥　道に迷ったときや事故に遭遇したときの対処の方法を知り、そのうちのいくつかができる	◇周りの人へ助けを求める方法
２）消費生活 消費生活に対する興味を持ち、知識を身に付けて、周囲の助けを得ながら日常必要な物が買える	①　商店の形態や価格の違い及び消費税について知る	◇スーパー、個人商店
	②　買いたい物のある場所が探せて、買える	◇品名のメモや実物を人に見せて尋ねて場所を探す、ジェスチャーで人に尋ねて場所を探す、多めのお金を出してとってもらう
	③　品物を選ぶ方法を知る	◇表示（価格と値引き、サイズ、製造年月日）を見る、試着して選ぶ、見分けにくい日用品に関する商品（シャンプー、リンス）知識
	④　身近なサービスの利用法を知る	◇写真の現像・焼き増し、ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ、理髪店・美容院、ﾚｽﾄﾗﾝ
	⑤　釣り銭の間違いへの対処法と品物の返品交換の方法を知る	◇現金とレシートを示す ◇レシートと品物を示す
	⑥　契約上のトラブルを回避するための知識を身に付ける	◇印鑑の重要性、訪問販売の危険性
	⑦　金融機関としての郵便局および銀行の基本的な機能を知る	◇金融機関の生活の中での重要性、預金、口座を開き使うこと、預金の出し入れ、生活保護費の振り込みと引き出し、公共料金の自動引き落とし、キャッシュディスペンサー、カード

3）センター センターでの学習生活に必要な知識を身に付け、必要な行動ができる	①　人に書いてもらって欠席、早退、遅刻の届けができる	
	②　当番（日直等）の仕事が果たせる	◇教室内外の教室整備（チョーク、その他の備品、掃除）、教師との連絡、宿題、昼食関係（食券、配膳、後片づけ）
	③　その他、センターの規則を守って行動できる	◇喫煙、飲食、内履き・外履き、時間、身分証携帯、団体行動
4）住居・近隣対応 居住環境についての知識を身に付け、近隣の人や援助してくれる人と良好な関係を保つことができる	①　住居内の安全と衛生に関する知識を身につける	◇ガス、電気、施錠、住居用洗剤等の薬品、布巾と雑巾の区別、災害への備え
	②　日本の住宅事情と住宅の種類について最低限の知識を身につける	◇移転の自由、住居の狭さ、畳の生活、公営住宅の種類・競争率、帰国者への優遇処置、民間住宅の種類
	③　近隣の人とよい関係を保つための、日本の近所付き合いについての知識を身につけ、適切に援助を求めることができる	◇引っ越しの挨拶、日常の挨拶、回覧板処理、町内会制度、ゴミの分類と出し方、緊急時の連絡（急病、火災、盗難）、苦情（言う、言われる）、物のやりとり（おすそわけ、みやげ）、慶弔の知識
	④　身元引受人や自立指導員の役割を知り、これらの人々に適切に援助が求められる	◇役割の知識、役場、金融機関、日本語学校、求職、就職面接、職場、医療機関、子どもの学校等の諸手続きやこれらに関する相談事
	⑤　接客・訪問の基本的なマナーを身に付ける	◇訪問のマナー（服装、靴の揃え方・脱ぎ方、座布団の座り方、足のくずし方・組み方、お茶・コーヒー・紅茶の飲み方、食べ物を勧められたときの断り方）、食器類の知識、接客のマナー（服装、靴の揃え方、座布団の出し方、お茶・コーヒー・紅茶の出し方、食器類の知識、食べ物の勧め方）、食べ物の勧め方、断り方
5）職場・自分学校 求職の方法や職場の習慣についての知識および簡単な面接試験のマナーを知る	①　求職について知る	◇求職の必要性（分配がないこと）、帰国者にも就業可能な職種、雇用条件、勤務時間、社会保険、給料の仕組み、休暇制度等）、雇用形態（正社員と他との違い）、求職の方法と流れ（履歴書の必要性、職安、知人紹介）
	②　職場の習慣について知る	◇欠勤、早退、遅刻の正当な理由（病気、交通事情、慶弔）と処理の仕方、長期休暇のとり方、職場の電話や事務用品は私用に使えないこと、他人の給料の額は聞かないこと、日常的な挨拶
	③　簡単な面接試験のマナーを知る	◇入退室　おじぎ、返事

６）健康 日本の医療事情についての知識を身に付けるとともに、医療機関の利用法を知る	①　日本の医療制度に関する最低限の知識を身につける	◇医療券、健康保険の種類、健康保険の仕組み、緊急医療体制
	②　健康・衛生を保つ習慣を身に付ける	◇歯磨き、爪、入浴・洗髪、下着・靴下、体温の計測
	③　医療機関利用に関する知識を身につけ、２、３度自立指導員等の付き添いがあれば次からは自力でその医療機関が利用できる	◇付き添いの依頼、医療機関利用の流れ、受診の流れ、症状の説明、既往症・持病・アレルギーの有無、医者の指示や薬の飲み方を正しく理解することの重要性
７）通信 郵便や電話についての知識を身に付け、利用に慣れる	①　電話利用に必要な知識を身に付ける	◇電話普及の実態、電話設置の方法、料金の仕組み、電話の役割（指導員等との中文での約束、約束変更、緊急時等）、自宅の電話番号を人に知らせることの重要性
	②　電話の利用に慣れる	◇電話機の種類と使い方、電話のマナー（含：間違い電話）、家に来た電話の取り継ぎ、指導員等への中文での依頼、学校や職場への欠勤・遅刻の連絡、センターでの実習における現在地の報告・緊急時の中文での連絡、留守電や話し中のときの対処
	③　国内及び中国への手紙の出し方についての最低限の知識を身につける	◇郵便局の通信業務（郵便の種類※、郵便番号、料金）、表書きを人に頼んで書いてもらう
８）社会福祉・手続き 帰国者が受けられる公的援助と必要な手続きがあることを知る	①　帰国者受け入れに関する種々の公的援護策があることを知る	◇生活保護制度、自立指導員、日本語学習の機会、公営住宅の優先入居（埼玉と千葉は例外）
	②　自分に必要な諸手続きがあることを知る	◇生活保護、年金、役所の窓口、書類の記入、外国人登録または住民票、国籍取得、家族の呼び寄せ、出入国
９）子弟教育 日本の教育事情を知り、保護者の役割について知る	①　日本の学校制度や教育事情、帰国者二世の進学事情を知る	◇学齢と学制、進学率（小中高大）、教育費、学歴社会、小学校の施設 ◇小中学編入学年決定の仕組み、進学の可能性、奨学金制度
	②　小中学生の生活について知り、学校との連絡や必要な物の準備ができる	◇小中学校の一日（学科、給食、クラブ活動）、小中学校の一年（学期、学校行事、長期休暇）、校則（服装、飲酒喫煙禁止、欠席の届け） ◇お知らせや成績表の処理、お弁当作りの工夫
	③　子供が学校適応上直面する問題とその対策について知る	◇差別やいじめの原因（受け入れ側の経験不足、生活習慣の違い、年齢の違い トラブル事例）
１０）生活技能 生活の前提となる数や文字記号、機器の扱いに関する生活技	①　４桁までの数がわかる	
	②　カレンダーがわかる	◇日付、曜日、日付と曜日の照合 ◇
	③　時計がわかる	◇アナログ時計を読む、デジタル時計の数字表示を読む

能を養う	④　貨幣が扱える	◇1,5,10,50,100,500 円玉の区別、千，五千，一万円札の区別、金額と貨幣との結びつけ
	⑤　指示に従って簡単な書式に自分の名前と生年月日、年齢が記入できる	◇自分の名前の漢字表記、平仮名表記、年齢
	⑥　文字や記号の照合ができる	◇店名の看板、駅名
	⑦　簡単な機器や道具の操作をしてみる	◇時計、パンチ、ホチキス、テープレコーダー、カメラ、コピー機 ※電卓、ビデオカメラ、紙裁断器、ナイフとフォーク、缶切り等、中国で使ったことのなかったもの

中目標２：将来の生活に有用な基礎知識・基礎技能

小　目　標	達　成　目　標	リ　ス　ト
１）一般教養 帰国者に必要な最低限の一般常識を身に付ける	①　正確な年齢の重要性について知る	◇年齢が重要であることを知る、自分の正確な満年齢を知る、日本の年号と西暦
	②　日本のごく簡単な戦後史を知る	◇「敗戦から日本の民主化と復興 」のビデオ
	③　日本のごく簡単な地理を知る	◇主な４島名、自分の定着地の都道府県名、東京・埼玉という県名、日本が山がちな狭い島国であること、気候
	④　日本人の生活様式についてごく簡単に知る	◇身だしなみ、食生活、家計、教育制度、家族事情（親子関係、同居別居）
２）異文化 異文化社会での適応に伴う問題、及び日本での人間関係において生ずる問題を知り、自分の問題として対処法を考えてみる	①　異文化事例等を通じて、文化の異同を把握し、その背景について考えてみる	◇・入郷随俗・等の残留孤児の日本社会定着にまつわる社会的問題（住宅、就職、生活保護、異文化、子や孫の日本社会適応とのずれ）のトラブル事例、先輩の事例等個別のケース、国籍と権利（国籍取得による得失）
	②　サポートの入手法や精神の安定を保つための楽しみを見いだす方法について知る	◇個別のケース（先輩の事例）、所沢センターまたは担任や同期生との電話連絡の必要性、中国の家族に写真や音声テープを送って消息を知らせること ◇テレビ（すもう、中国語講座、料理教室）
	③　今後の人生設計について考えてみる	◇３年ぐらいは大変なこと
３）日語自学 日本語の自学自習が可能なことを知る	①　生活の中で日本語を学べることを意識する	◇日常の教師とのやりとり（日直、指示出し等）
	②　記憶の助けになるいろいろな方法を試してみる	◇平仮名のメモ、音声テープ等

中目標３：身近な生活や将来の生活の基礎となるコミュニケーションの力

小　目　標	達　成　目　標	リ　ス　ト
１）話題コミ 日本人と接することを通して、ごく限られた話題で何とかコミュニケーションできるようになり、日本語ができなければコミュニケーションできないのではないかという不安を軽減する	①　相手が様々な手段を用いれば理解でき、自分もまた様々な手段を用いれば伝えられるということを意識する	◇表情、動作、絵（相手のみ）、類推（自分）、具体物（実物、写真、地図）等
	②　相手の発話が理解できないとき、理解できないということを伝えることができる	◇表情、動作、言葉（わからない、わかりません）
	③　自分に身近な話題について様々な手段で尋ねられたとき、様々な手段を用いて答えることができる	◇氏名、年齢、生年月日、家族、故郷（地名、暑さ寒さ、産物）、仕事、中国での生活（一日の生活、家事分担、貨幣紹介、物価の日中比較等）、好きなこと・食べ物、したいこと、食べ物（餃子の作り方）、行事（春節）
２）日語知識 日本語に関する必要最低限の知識を身につける	①　平仮名の大部分が読め、その一部が書ける	◇５０音図のしくみ、平仮名で表記された語の音読 ◇平仮名１文字の聞き書き
	②　行動達成や平仮名学習に有用な最低限の語彙や表現の意味を知り、その一部が使える	◇『絵単語 88』、『Aタイプ用語彙リスト』
	③　必要最低限の日本語の漢字の意味がわかったり、写せたり、書けたりする	◇「漢字リスト」のもの ◇センターの住所 ◇自分の氏名